

## 第2回 西九州北部地域（仮称）連携中枢都市圏協議会 議事録

日時：2017/11/1 14：00～16：00

場所：JA ながさき西海会館 4階 大ホール

### 1. 開会

- 開会

### 2. 佐世保市長挨拶

### 3. 議事

#### 【事務局】

#### （1）都市圏の枠組みについて

- ①連携事業の考え方について（P.1）
- ②連携事業として位置付ける事業の考え方について（P.2）
- ③連携協議継続取り下げ事業整理票（P.3～P.7）
- ④都市圏参画判断に係る連携協議継続事業一覧表（P.8～P.13）
- ⑤都市圏参画構成自治体（P.14）

#### （2）都市圏の名称（案）について（P.15）

#### （3）重点連携事業（案）について

- ①連携協議継続事業内の重点事業案（P.16）
- ②コンサルによる新規提案事業（（公財）ながさき地域政策研究所）（別冊資料）

#### （4）都市圏ビジョン懇談会について

- ①都市圏ビジョン懇談会設置要綱（案）について（P.17～P.18）
- ②都市圏ビジョン懇談会委員名簿（案）について（P.19）

#### （5）連携中枢都市圏形成全体スケジュールについて（P.20）

### 4. 質疑応答

#### （1）都市圏の枠組みについて

- （松浦市）

連携事業として位置付ける事業の考え方の整理については、当協議会としての考え方なのか、国の考え方なのか。

<事務局>

当事務局独自の考え方である。

- （松浦市）

「事業を実施することで、当該事業に係る圏域全体の状態が最適化されるもの」とは、事業自体が圏域全体の状態が最適化されるものという意味か。

<事務局>

その区域内もしくは連携する自治体間において最適化されるものと考え。必ずしも、1市1町が連携することで全域に効果を及ぼすわけではない。

(会長：佐世保市)

表現を変えた方が分かりやすくなるのではないか。

<事務局>

表現を修正する。

● (西海市)

14 ページに参考データとして、平成 22 年国勢調査の人口が記載されているが、最新の人口を把握することが大事であり、平成 27 年の国勢調査の人口を記載すべきではないか。

<事務局>

平成 27 年国勢調査の人口に修正する。

● (平戸市)

具体的な事業スタートは平成 31 年度からなるかと思うが、「原則として 5 年以内に事業化が見込まれ 10 年以内に効果の発現が期待できるもの」とあるが、実際に事業がスタートした場合には、途中での見直しあるいは新しいものを追加ということも考えられるが、その点はいかがか。

<事務局>

都市圏ビジョンの期間が 5 年となっているので 5 年としているのだが、事業の見直しあるいは新しい事業が出てくることは当然見込まれる。議決事項である連携協約にも事業概要や中心市及び連携市町の役割等を記載することとなるが、これらの内容を変更することとなると、都市圏ビジョンの個票内容も変更が必要となる。事業の効果が出るためには一定時間を要することから、5 年程度は様子を見るべきだと考えている。

● (小値賀町)

12 ページの「社会情勢に即した一般廃棄物処理のあり方に係る検討」についてだが、佐々町と連携できるのか早めに結論を出していただかないと町の計画がたてられない。事務局としてどう考えるか。

<事務局>

圏域全体として適正なのかというところは課題として持っておく必要があるという判断である。現段階における連携協議というのは、全く協議する余地がないものについて振り落と

すという段階であり、具体的な協議のテーブルについているわけではない。ただし、できるだけ早く協議は進めていく。

●（佐々町）

小値賀町長が言われたように、佐々町も廃棄物処理施設老朽化の問題がある。連携事業が進んでくれるとありがたい。

<事務局>

1 ページ記載の連携協議の考え方にそって、まずは連携事業として協議する余地があるかどうかをすり合わせしてきた。本日、枠組みの決定を行い、これから、来年度事業が実施できるかを検討していくこととなる。

<会長：佐世保市>

本都市圏の枠組みについては、合計 14 市町として都市圏の形成を目指して協議を進めていくものとしたしたい。

（2）都市圏の名称（案）について

●（武雄市）

アンケートを取ったうえで選んだという説明だったが、前段部分は一番多い言葉で、後段部分は一番多い言葉ではないという理由が知りたい。

<事務局>

後段部分については「特になし」が一番多かったが、事前の幹事会において「こだわらない」という意味での回答をいただいたという認識である。

「連携中枢」という言葉は行政に関わるものにとっては聞き慣れた言葉だが、一般の市町民にとって果たしてこれが広域で連携していくという意味において、分かりやすいのかと考える。広い区域で連携していくという意味で「広域」という言葉が最もふさわしいのではないかという提案である。ご理解いただきたい。

●（松浦市）

以前「広域市町村圏」という名称があったが、それと同じような枠組みに受け止められるのではないかと、若干「広域都市圏」という名称に引っかかりを感じる。

あくまでも、西九州地域での佐世保を中心とした都市圏を形成する、というのが本来の形と考え「連携中枢都市圏」は長すぎるので「西九州させぼ中枢都市圏」という意見を出させていただいた。強いこだわりがあるわけではない。

<会長：佐世保市>

他に意見がなければ「西九州させば広域都市圏」で決定させていただく。

### (3) 重点連携事業（案）について

#### ●（西海市）

6ページの「地域商社設立事業」のなかで「当地域ではその動きはない」とあるが、西海市ではすでに地域商社の設立に向けて動いている。新たな地域商社を設立することか。

<コンサル>

西海市での地域商社設立の動きは把握している。あと、松浦市など、様々な地域商社設立に向けた動きがあると思う。ぜひ、既存の取組みと連携した形で、検討を深めていければと思っている。

既存の地域商社の機能を強化するパターンもあるし、新たな方針を立ち上げるなど、様々な形態が考えられるので、今後調査を継続したいと考えている。

#### ●（伊万里市）

16ページに連携協議継続事業内の重点事業案《共同地域開発》「観光連携」とあるが、これに関連して新規事業を2つ提案させていただきたい。

1つ目は道の駅広域連携事業。圏域には道の駅はたくさんあるが、連携することによって圏域内の情報を総合的に発信する「ガイドンスセンター」の設置や、圏域の特産品を販売することによって、他の市町を訪問するきっかけになるのではないかな。

2つ目はアンテナショップの共同運営事業。大都市圏でアンテナショップの運営は出費に見合った効果が得られず単独での運営は難しい。共同で運営すれば、費用面でも効率的であり、道の駅同様に圏域全体として魅力をPRでき、観光客の呼び込みにつながるのではないかな。具体的な地域としては東京、大阪、福岡等を考えている。

どちらの事業も連携する都市圏があるからこそ実現可能と考えている。ご検討いただきたい。

<事務局>

提案いただいた事業は、総務省のモデル事業として、いわゆる効果が期待できるものとして推奨されている。のちほど詳しく伊万里市の考えやイメージを伺って、連携事業のひとつとして協議を進めたい。

#### ●（東彼杵町）

林業関連の事業がない。伊万里市が入っているなので、林業の連携を検討していただきたい。

<事務局>

林業関連については、これまで連携事業としてあがってなかった。関係部局へ投げかけを行い、検討していく。

●（伊万里市）

東彼杵町の話のように、伊万里には木材があるが、残念ながら木材を集めるのに苦勞している状況。輸出なども考えており、連携についてはぜひ当市からもお願いしたい。

●（西海市）

当市も林業についてぜひ連携したい。

<事務局>

担当部局と協議していく。ただし、連携協議としての位置づけを行うには佐世保市が入ってなければいけない。そこも含めて内容確認を行っていく。

（４）都市圏ビジョン懇談会について

<会長：佐世保市>

懇談会委員に女性が少ないということで、新たに２名程度の公募を行うことにする。

（５）連携中枢都市圏形成全体スケジュールについて

<会長：佐世保市>

特に意見がなければ、このスケジュールで進めていく。

（６）その他

●（伊万里市）

本連携には佐賀県から４市町参加しているが、佐賀県としてこの連携協議会に参加することについての考え方等をお聞かせ願いたい。

<佐賀県>

佐賀県はそれぞれの市町の判断に任せている。

●（波佐見町）

実際に連携事業の検討等に取りかかると、大変な事務量、労力がかかると思う。各市町ともぎりぎりの職員数でやっている。議会に説明していくためにも、リスクやメリットを明確にしてほしい。

<事務局>

連携中枢都市圏は大変重要な案件であり、どのような効果があるかしっかり考えていく。地域の将来の発展のためにもぜひ協力頂きたい。

●（東彼杵町）

別冊資料「連携事業に関する新規提案」の5ページの大村湾活用事業について、大村湾漁協と時津漁協は合併している。圏域以外の連携も可能か。

<事務局>

協議の状況を見極めていかなければいけないが、自治体の支援によって民間の事業者間においても圏域に捉われず、何かしらの連携は可能と考えている。

## **5. 閉会**

---